

福岡県米麦大豆生育情報

平成30年 3月 1日
福岡県農林業総合試験場

麦の生育概況と対策

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	2月9日～2月27日 (19日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	5.9	10.9	1.0	94	26
前年差(比)	-0.7	-0.6	-1.0	103%	77%
平年差(比)	-0.7	-0.1	-1.4	116%	47%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦の生育 [小麦:11月20日播種、大麦:11月24日播種]

2月9日～2月27日の平均気温は平年より0.7℃低く、日照時間は16%多く、降水量は53%少なかった。また、2月12、13日に積雪を記録した。

2月28日現在の麦類の生育は、草丈は平年より27～39%短く、主稈葉数は0.8～1.4葉少なく、生育は遅れている。莖数は、農産部では、小麦で5～12%少なく、大麦で7%多い。筑後分場では、小麦で平年並～15%多く、大麦で35%少ない。

莖立期は、小麦、大麦ともに3月1～2半旬で平年より遅いと予想される。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

ほ場の湿潤状態が続いており、排水対策が極めて重要である。土入れを兼ねて作溝し、地表水を排水する。排水口の整備、枕地作溝、溝さらえ等の排水対策を徹底する。

(2) 踏圧、土入れ

莖立期以降の踏圧は行わない。土入れは排水対策や倒伏防止、雑草防除の効果が高く、莖立期後10日頃までに実施する。播種期や地域による生育差が大きいため、作業はほ場の生育状況をみて判断する。

(3) 雑草防除

広葉雑草を中心に発生が多いほ場があり、土入れや茎葉処理除草剤処理で防除を行う。雑草の発生状況を観察し、茎葉処理除草剤を適期内に処理する。除草剤は「普通作雑草防除の手引き」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(4) 追肥

小麦、食料用大麦、裸麦で、2回目の追肥が終わっていないほ場では、基準量を速やかに施用する。

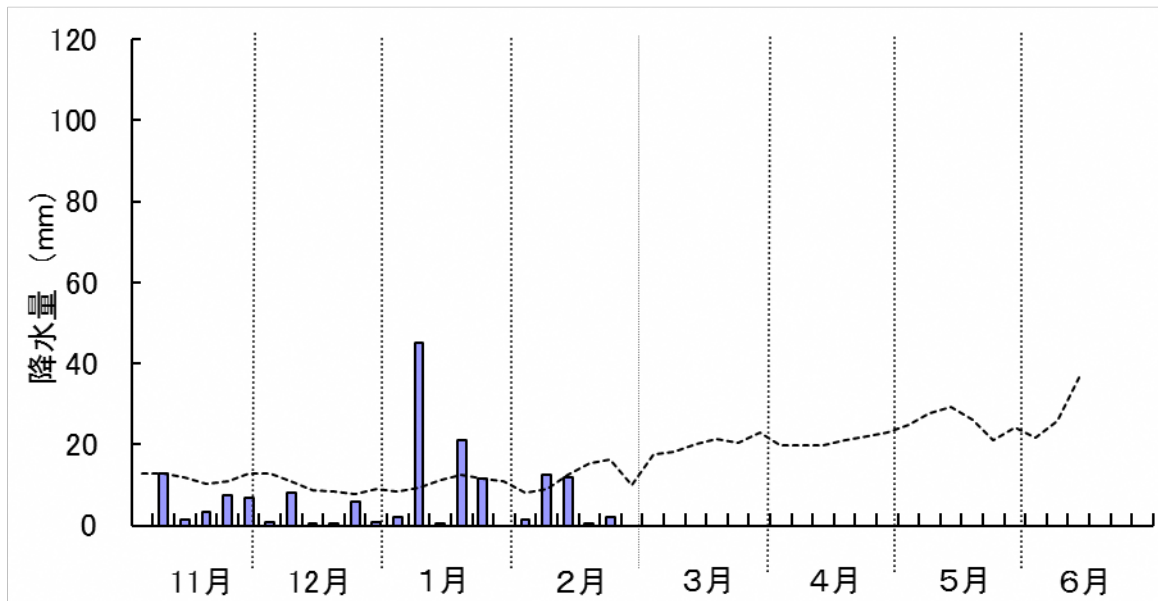
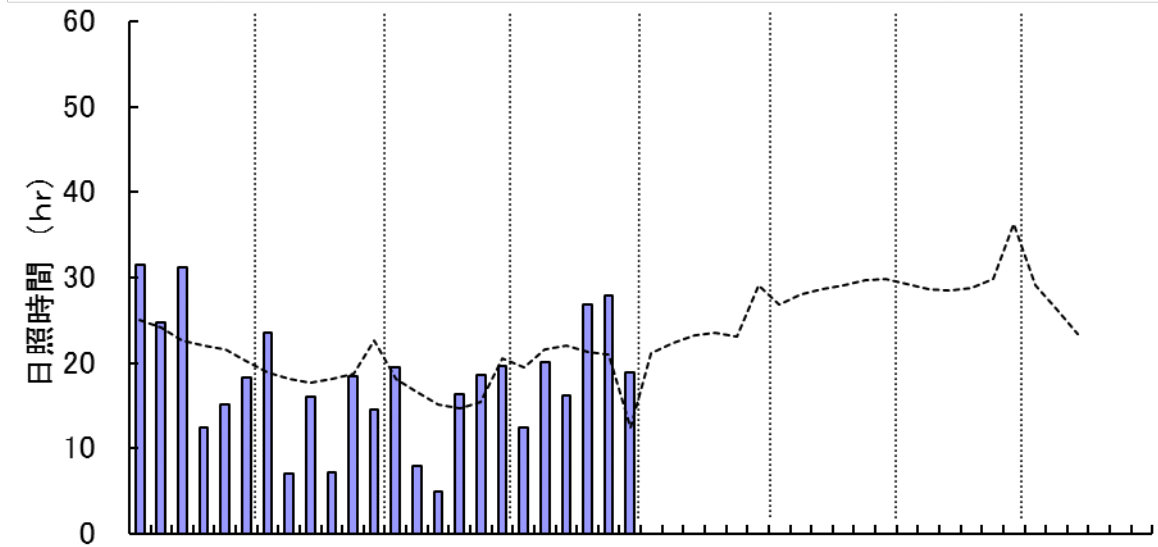
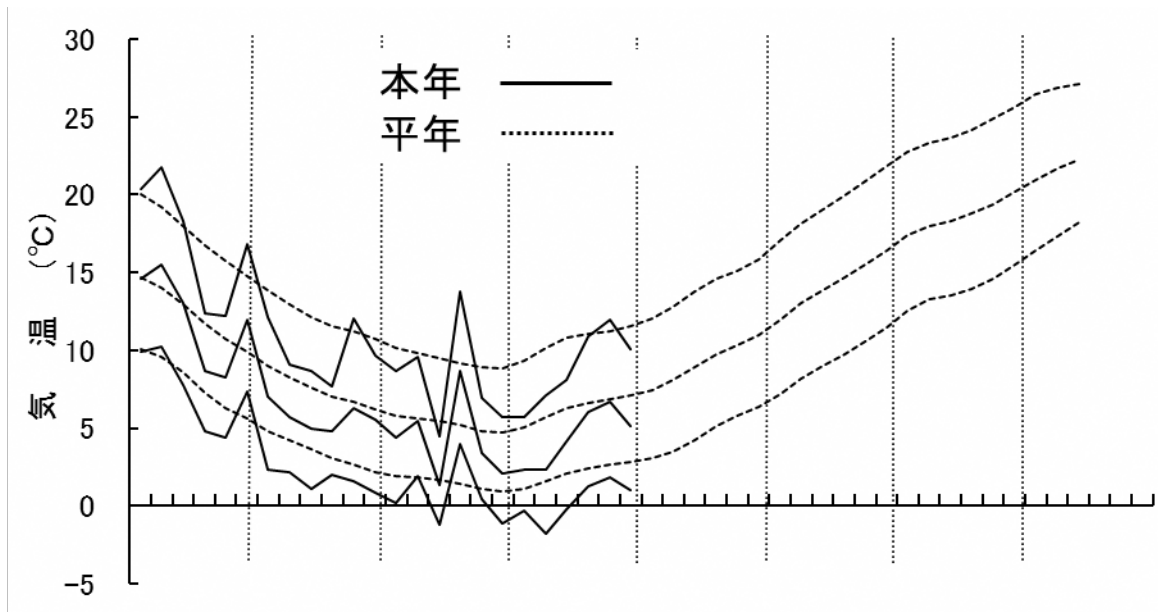
4. 農林業総合試験場における調査成績

調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	出芽期 月.日	2月9日			2月28日			予想 茎立期 月.半旬
					草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数	
					Cm	本/m ²	L	Cm	本/m ²	L	
農産部	11.20	チコ ^イ イ ^ミ	本年	12.2	12.4	513	4.0	17.1	653	5.4	3.1
			前年比(差)	+5	55	83	-2.2	51	97	-1.9	(2.4)
			平年比(差)	+2	82	81	-1.4	70	88	-1.4	—
	11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	12.2	13.0	497	4.2	17.1	632	5.5	3.1
			前年比(差)	+5	55	90	-2.1	52	107	-1.8	(2.4)
			前8年比(差)	+2	82	84	-1.2	68	95	-1.2	—
11.24	ほうしゆん	本年	12.6	8.7	644	4.2	12.8	1214	5.8	3.1	
		前年比(差)	+1	71	71	-2.1	62	128	-1.9	(3.1)	
		平年比(差)	±0	85	82	-1.2	69	107	-1.1	—	
筑後分場	11.20	シカ ^ネ ム ^ギ	本年	12.3	12.1	535	4.8	16.7	832	6.3	3.2
			前年比(差)	+1	66	113	-0.8	64	119	-1.1	(3.1)
			平年比(差)	+2	72	80	-0.8	61	101	-0.8	—
	11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	12.3	12.9	513	4.5	18.4	841	5.8	3.1
			前年比(差)	±0	85	97	-1.2	82	126	-1.6	(2.6)
			前9年比(差)	+1	75	82	-0.9	63	115	-1.2	—
11.24	はるしずく	本年	12.14	9.4	443	4.7	16.8	827	6.3	3.2	
		前年比(差)	+6	79	74	-1.2	96	94	-1.1	(3.1)	
		平年比(差)	+6	71	54	-0.7	73	65	-0.8	—	

注1) 平年値はH19～H28年播の平均値。

2) 前年比(差)、平年比(差)：草丈および茎数は前年比および平年比、出芽期および葉数は前年差および平年差を示す。

3) この値は暫定値で、今後変更することがある。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：平成29年11月～平成30年6月)